しまねの社会教育だより

vol.36
島根県立西部社会教育研修センター
島根県立東部社会教育研修センター

島根県観光キャラクター「しまねっこ」島観連許諾第7373号

photo 益田地区社会教育委員連絡協議会研修会（地域課題講座）
「今こそ、社会教育の出番!～防災力を上げるための“つながりづくり”を考える～」

特集 地域で支え、共に創る、地域の未来へつながる取組
～子どもたち・若者たちの「思い」を実現～

2023.
2月号

contents

■ 熱い要望に応えて 公民館等職員専門研修
■ 学びがチカラに !! 〔隠岐の島町立西郷小学校　青木 悠介さん〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介　〔出雲市・津和野町〕
■ しまねの社会教育 × 島根県立大学 地域政策学部（浜田キャンパス）

特集 地域で支え、共に創る、地域の未来へ

若者たちが地域で活躍する姿は、子どもたちに憧れを抱かせるものであり、大人たちにとっては、活力や希望を与えてくれるものでもあります。県内の半数以上の公民館等が「次世代の人材育成」を課題と捉えている中（令和４年度公民館等実態調査）、子どもたち・若者たちが地域の大人たちとつながり、関わりながら、活躍する取組が、県内各地で繰り広げられています。2つの取組事例を紹介します。

■ 松江市宍道公民館「“出逢う”から始める、豊かなつながり」

宍道公民館では地域で若者たちが活動し、活躍する場面を生み出すためのポイントを3つあげています。子どもたち・若者たちが育ち、地域と共に活躍するまちづくりをめざしている館長 佐藤和彦さんにお話を伺いました。

幼少期から育まれていく地域とのつながり

宍道地域では、乳幼児を対象にした事業から小中学生を対象にした事業まで、絶え間なく子どもと地域のつながりを積み重ねてきました。さらに近年は宍道高校の『地域探究部（生徒が自主的に地域と連携する部活動）』の活動が盛んになったことから、高校生や高校卒業後の若者とのつながりも生まれ、幼少期から高校卒業後まで長いスパンの中で子どもや若者と地域の大人が出逢い、関わることができるようになりました。

乳・幼児期
天使の居場所（親子支援）
親子体験事業（遊び）

→

小・中学校
体験事業・ふるさと教育
リーダー研修・キャリア教育

→

高等学校
地域探究活動
地域探究部

→

高校卒業後
（青年期・大学生）
地域活動・事業への参加・参画

若者たちのやる気が生まれる公民館事業の工夫

公民館では、今まで高校生・大学生・若者を対象にした事業をあまり行っていませんでした。そこで「若者たちは今、何を考え、どう生きているのだろう？話をしたい！」と考え、これまでの事業を見直しました。

「まちづくりアイデアプレゼン大会」「宍道プレスルームの設立（SNS配信）」「宍道コマーシャルコンテスト」「公園を利用したアクティビティーの創出」「ヒカリノミチマルシェ等」の事業では、世代間のつながりが生まれています。特に「**まちづくりアイデアプレゼン大会** ～ 発言は自由！アイデアも自由！仲間をつくって、やってみよう ～」では、毎年、多くの住民や子どもたち・若者たちも参加しているため、それぞれの思いや願いが届き、“やる気”やユニークな活動が生まれています。地域の大人たちは「若者に対して勝手な思い込みをしない」、そして常に「あなたは何が好き？」と問いかけ続けることを大切にしています。

宍道地域では、人と人が出逢い、さらにそこから次の出逢いが生まれ、若者たちと地域の大人たちの輪が広がっていることを実感しています。

若者たちが活躍できる場づくりと広がるつながり

若者たちの“やる気”が生まれたら、それを形にする場づくりが必要です。若者たちは宍道町の団体や大人たち、学校ともつながり、まちづくりにつながる事業の企画に参画し、実現していきました。

月1居場所 café place … カフェを通した高校生と地域住民とのコミュニティづくり
宍チャレ！ …… 地域の大人の胸を借りて、高校生が多様な学びにチャレンジ
生き方トーク@宍道！ …… 中学生と地域の先輩が語り合うライフキャリア教育の場
好“気”心lab. …… 好奇心から学びを考え、「やってみたいこと」を実現するラボ
体験学び塾 …… 小学生対象の好気心lab.
大人図鑑 …… 中高生や若者たちのやりたい事業を実現するためにまとめた地域の人の情報

この取組に参加している若者代表の高橋椿太郎（しゅんたろう）さん（鳥取大学３回生）は、「誰もが安心して立ち寄り、話ができ、元気になれる居場所や機会、仲間をつくりたいと考え、活動を始めました。公民館での出逢いや学びをとても大切に思っています。」と話しています。

現在、宍道地域の若者たちは、同じように県内各地で活躍している若者のグループとのネットワークをつくり、情報の交換をしながら、活動の場を広げようとしています。成長した若者たちと共にまちづくりができることを楽しみにしています。

つながる取組 ～子どもたち・若者たちの「思い」を実現～

■ 川本町　「『かわもと あそラボ』から紡がれるつながり」

『かわもと あそラボ』は、中高生が中心となって活動しているグループです。コミュニティカフェ『Orange(オレンジ)』を活動の拠点に、自分たちの「得意なこと、やりたいこと」を、地域の様々な世代の人々と一緒に楽しみながら活動しています。この取組にかかわっておられる川本町教育委員会派遣社会教育主事　竹田進吾さんに活動のポイントを伺いました。

『あそラボ』でうまれるつながり

地元の中高生の居場所、活動の場となっている『かわもとあそラボ』には、さまざまな世代の人がかかわり合って活動する「楽しさ」があります。

以前、『あそラボ』に通う子どもから「ここではいろんな話を聞いてもらえ、否定されない」という声を聞いたことがあります。まずは、じっくりと対話を重ねながら、活動の中で「頼る⇄頼られる」を繰り返すことで信頼関係が築かれ、子どもも大人も安心して活動することにつながっていくのだと思います。誰にとっても居場所や出番ができるよう、教育委員会としてこれからも後押ししていきます。

今、『あそラボ』には、中高生だけでなく、大学生も関わっています。大学生が中高生の話を聞いたり、活動の情報発信などにも関わったりしていることで、活動の多様性や広がりが生まれています。

頼りになるお兄さん・お姉さんの活躍

地域で活躍する中高生の姿は、小さな子どもたちにとってあこがれのお兄さん、お姉さんであり、大人から見ても頼りになる存在です。『子育てサポートサークルえっとね』が開催する親子イベントでは、中高生がボランティアとして参加し、子どもたちと遊んだり、活動のサポートをしたりしました。

また、『かわもとぽかぽか親子プロジェクト（通称 K-POP）』においても、タケノコほりやオーナメントづくりなどで活動する親子のサポートをしました。参加者からの感謝の声に、中高生は達成感・自己有用感を感じ、また次の活動への意欲が高まります。

大人とつながって地域づくりに参画

三原まちづくりセンターで開催される「まちセンマルシェ」において『あそラボ』に出店してほしいと依頼がありました。自分たちが育てたサツマイモを使い、お客さんに買ってもらうための商品づくりに取り組み、販売をしました。

また、観光協会からも依頼を受け、イベントを盛り上げました。廃線になった三江線を利用したレールバイクイベントで、参加する子どもたちに楽しんでもらえるような店を自分たちで考え、企画から準備、当日の運営まで、メンバーで協力して行いました。当日は、子どもたちに工作をやさしく教える姿等が見られました。

経験を積み重ねながら、地域の賑わいづくりに貢献しています。

■ 子どもたち・若者たちの「思い」を実現するために…

これらの取組には共通するいくつかの要素があります。

- □**子どもたちや若者たちが集まり、活動できる場や機会があること**
- □**地域の大人が、子どもたちや若者たちの声を聴き、対話しながら伴走していること**
- □**地域の大人が、子どもたちや若者たちに任せる場面をつくっていること**
- □**子どもたちや若者たちを、地域や地域の大人とつなげるコーディネーターがいること**

子どもたち・若者たちの声を大事にしていくということは、子どもたちや若者たちを地域の一員として認めるということです。大人たちも子どもたち・若者たちとかかわる中で、あらためて地域の一員としてのやりがいや生きがいが湧いてきます。若い世代を育てることを通して地域が活性化し、地域での活動を共に創ることで育った次世代は、地域の未来につながる「希望」となります。このような事例は、紹介した２つの事例に限ったことではないと思われます。ぜひ皆さんの地域での若い世代の地域参画のヒントにしていただければと思います。

熱い要望に応えて 公民館等職員 専

1【講義】「コロナ禍の公民館『新しい学びのスタイル』とは」(オンライン)

広島県大竹市立玖波公民館　河内 ひとみ 氏

■ 玖波公民館が、運営のために大切にしてきたこと

現場主義・地域目線で一緒に汗を流す!

事業は、地域の方の声に耳を傾け、世の中の流れにアンテナを立てて、楽しそう、興味あると思ってもらえるように企画する。

「地域ジン」と呼ばれる地元住民から構成されるボランティアスタッフが中心となって企画し、地域住民主体で運営する。

その主体性が仲間意識を自覚し、地域の繋がりを強固にしていく。

子ども・若者も巻き込む多世代交流

ブレないテーマは【多世代交流】。どの企画もシニア、若者、子どもも参加できるようになっている。多世代が参加することで、縦の世代も繋がり、新たな形のコミュニティが生まれる。シニア世代の企画が、若者が参加することでいつもと違った角度の事業になり、参加する方も、企画する方も、楽しく学べる事業にする。

結果をすぐに求めない! ビジョンを持って継続する事業戦略

大切にしてきたことは【結果をすぐに求めない】ということ。事業を継続して行い、失敗や成功を繰り返しながら、住民と共に改善のコミュニケーションをとる。イベントをやることが目的ではなく、玖波の町が良くなって欲しいというビジョンをもって仕掛けていく。公民館がきっかけで玖波のまち、ひとが元気になる。

■ 運営の実際

「ひとが変わり、まちが変わる」ここからが始まり

平成23年　学びのカフェを創設

- 地域の人々が参加し、講師と同じ目線で触れ合っていく自主事業
- 講座の合間にリラックスするカフェタイムを設けた参加型学習
- 月1回、タイムリーな題材で開催

受講者（新規来館者）が増えていった

参加者の中から、**地域ジン誕生!**
中学生地域ジンも誕生 **ヤング地域ジン**も誕生

地域の新しい担い手、地域への愛着が育っていった

- **おしゃれな学びの空間を演出**
- **広報戦略**
（フェイスブックやブログで、リアルタイムに発信）

仲間意識を育てる

- 地域ジン名刺の作成
- 同じTシャツを着る
- うちわ、幟、テーマソング、CDを作った

地域ジンが学びのカフェ講座を企画運営
⇒ ネットワークが広がった。地域課題への関心が高まった。

PDCAサイクルが回り始める! ※CAが大事

地域ジン
まちカフェプロジェクト
（古民家を借りてカフェ）

レトロマップ

見知らんガイド

玖波公民館で行われた自主事業　《河内さん資料より》

【学びのカフェ 国際交流】
フィリピンミンダナオから留学生が来館。現地を視察し、留学生自身が学びのカフェを企画。自国に公民館を創る為、ノウハウを学んで帰りました。

【くばコレ】
地元の子どもからシニア世代、企業、団体の方々が、自分の好きな服を着て表現するファッションショー。事業当日は約500人が集まりました。

【こども天国in KUBA】
地元企業が協力して行われる、子どもたち参加型の職業体験事業。職業体験を通じ、子どもたちに地元企業を楽しく知ってもらい、約1,200人が集まりました。

まちのひとに自信と誇り　活気あるまち

門 研修

研修のねらい

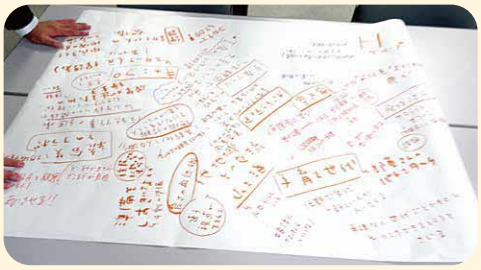
地域づくりのビジョンや公民館等の経営マネジメントの重要性を理解し、未来の地域づくりのために公民館等職員がどう動いていけばいいのかについて、マネジメントの実際例から具体的に学ぶ。

2【演習】「未来を見据えた公民館等の運営マネジメント」から

ワールド・カフェ風で、住民を巻き込んでいる（住民が参加・参画している）事業を紹介し、考えを出し合いました。

- 参加したくなる講座名 …… 脳活笑学校・キャンプで交流
- 集う場を作る、交流人口を増やす … お茶でも飲んで話しませんか・花の苗を配布します
- コラボレーションにする …… 子供対象のイベント×青年団・親子で参加
- 得意なことを持っている人を発掘 … 竹細工、農業体験
- 協働する人 …… 運営委員・事業委員・ボランティア募集・高校生・企業
- 広報 …… 公民館だより・口コミ
- 課題 …… 参加はするが、参画は難しい
- 地域に出かける …… 知らないことがあったことに気が付いた
- 他地域との交流 …… 地元の再発見・出会いが結婚につながればいい
- 継続するために …… おしゃれ感・手をかけすぎない・むりはしない
  準備をしすぎず、住民や参加者にもやってもらう

「どんな役回り」で「どんな方を」「課題」や「今後」は「新しい気づき・印象に残っていること」「やってみたいこと」など



3【ふり返り】

【参加者の声】1日の研修を終えて

- 河内さんの講演をお聞きし、地域ジンが増えていく仕掛けや、河内さんが一人一人を大切に向き合っておられたのが理解できた。まず、根本的な覚悟の部分が大切だと感じた。
- それぞれの公民館等の活動を聞いてワクワクした。
- 公民館等に人が集まる取組、仕掛け、多様な方を巻き込む手法は得るものが多かった。
- 自分の仕事のスタンスを振り返り見直すきっかけをつくることができた。住民の皆さんに無理なく楽しく地域活動に関わっていただけるように、日々工夫しながら業務に向き合いたい。
- コロナ禍で様々な行事、事業を開催することができず、来年度に向けて意欲がわかずにいたが、この研修に参加してワクワクとやる気をもらった。
- 楽しい研修でした。毎日毎日業務が多くとても大変ですが、公民館の職員で幸せなのかもと思えた日だった。

【センターより】

公民館等では、地域住民の声を聴き、住民の皆さんと力を合わせて地域課題の共有・検証・解決をしていきます。また、その過程を通して、主体的に行動し、実行力のある人を育成していきます。

玖波公民館では、企画・運営する地域ジン自身がPDCAサイクル（特にCA）を回しながら、より良い事業にしたり、新たな事業を起こしたりしています。また、地域の皆さんは、公民館と一緒に活動することの安心感や楽しさを実感し、より一層主体的に参加や協働をしています。そしてそれが、まちの人々に「自信」と「誇り」をもたらしています。玖波公民館のキーワードとなっている「地域ジン」は、公民館等職員研修における、「仲間（主体的な協力者）」にあたります。この研修を終えて、全体を通しての満足度は94.4%でした。今回参加された皆さんにとって、今後の業務への取り組みや進め方について思いを深めることのできた研修となりました。

「人が変わる！まちが変わる！」

これからも皆さんの要望に応え、**実りある研修**を企画・運営していきます。

学びがチカラに!!

今回は社会教育主事講習を受講し、その後、地域や学校での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

「つながらぁや」での経験、つながりを地域の子どもたちの学びに

隠岐の島町立西郷小学校　教諭　　青木 悠介さん

全校児童322名の西郷小学校で、6年2組24名の担任として勤務する青木さんは、令和元年に広島大学において社会教育主事講習を受講されました。「受講後、様々な体験や地域の方々との関わりを通して、子どもたちの成長の機会を広い視野でとらえることができるようになったと思います。」と話す青木さんの、地域、学校での取組や思いなどを紹介します。

■地域の大人の一人として子どもたちに関わりたい

隠岐の島町主催の「つながらぁや」は、隠岐に暮らす高校生が地域の大人と1対1の対話をすることを通して多様な人生観に触れ、自分自身を振り返り、隠岐の島町での暮らしや働くことを具体的にイメージすることを目的として開催されています。私がこの取組に参加したのは、学校の教員としてではなく、地域の大人の一人として子どもたちに関わりたいと思ったのがきっかけです。高校生との対話活動では、ありのままの自分の経験と、そこから得たこと、大切にしていることを伝えるよう心がけています。

■地域の方々との関わりを通して 自分のよさに気づいてほしい

総合的な学習の時間（キャリア学習）において、児童が教職員や地域の方々との関わりを通して自分のよさを発見し、自尊感情を高めていく「よさを発見！わたしの生き方モデル作成プロジェクト～ 未来の自分づくり！夢への道 ～」という学習を進めています。

プロジェクトの前半は、自分のよさ発見と自己理解についての学習をします。校長をはじめとする何人かの教職員が「人生グラフマップ（喜怒哀楽や好きなこと、苦手なこと、悩み、考えていること、強み弱みなど）」を記入し、苦しかった経験や喜びを感じた経験や思いを、児童にありのままに語り交流することで、普段関わっている大人の人生観や価値観に触れる機会を設けます。そのあとで、児童も自分の「人生グラフマップ」を記入し、それをもとに地域の大人の方とは1対1の、高校生とはテーマごとにグループでの対話活動を行います。

プロジェクトの後半は、児童が発見した自分のよさや、深めた自己理解をもとに、自分の生き方について考え、まとめます。そして、自分で将来の自分の生き方や夢について考えたり、調べたりします。また、地域の様々な職業人の方との交流も行い、最後に「マイライフナビブック（自己理解1ページ、将来の自分の生き方モデル1ページ）」にまとめます。

「つながらぁや」で得た多くの方々との出会いや経験が、「地域の大人と小学生」の対話活動から「高校生と小学生」の対話活動という新たな学習計画の発案にもつながりました。また、児童が小学校段階で「人生グラフマップ」の作成をもとに対話活動をすることの可能性や意義についても考えることができました。

「今後は新たな学習として、地域の方々と小学生が対話を積み重ね、本物の関わりを通して共に町を創造していく（地域企業と小学生の提案）、そんな学習を考えています。」と意気込みを語る青木さん。これからも学校と地域とのつながりを深めながら、子どもたちの成長を支えていかれることでしょう。

わがまちの社会教育の実践紹介

出雲市

国富のかわいい子“ほんそご”を地域で育てる
～「ほんそご School 2022」～

出雲市　国富コミュニティセンター

“ほんそご”とは、子どもを可愛いがるときに使う「かわいい子」を表す出雲弁です。国富地区では、そんな地域の宝である“ほんそご”を、様々な体験を通してたくましく育てる「ほんそごSchool」を実施しています。1年を通して、古墳探検、餅つき、田植え、イモ植え、笹まきづくり、イモ掘り、稲刈り、焼き芋会、しめ縄づくりなど、多くの大人が得意なことを生かして実施しており、今年で5年目となりました。ここでは夏に実施した「ほんそごサマースクール2022」を紹介します。

7月に高学年、8月には低学年を対象にそれぞれ3日間で行いました。毎朝、学習タイム後は、お楽しみの体験プログラムです。1日目は体操教室、フォークダンス、JAL折り紙飛行機教室、2日目は、調理実習、松江高専出張講座の恐竜・動物・テトラポットなどを作ってみよう（高学年）、ゴムで動く車を作ろう（低学年）、スポーツウエルネス吹き矢、3日目は、マジックショー、おじじとあそぼう、出雲弁演劇、絵手紙作成など盛りだくさんのプログラムでした。

アジフライ作りに挑戦

どのプログラムも地域の大人が熱心に指導し、子どもたちが体験から多くのことを学びました。国富の“ほんそご”は、元気な地域の大人に見守られ、たくましく育っています。

飛行機を飛ばそう

本事業は、子どもたちに普段できないようなさまざまな体験活動をしてほしい、という地域の大人の思いから始まり、今や定番の事業に定着しました。子どもたちのために自分の得意なことを生かして奮闘する大人の姿は、まさに大人の学びの場にもなっています。“ほんそご”という言葉から、国富地区にとって子どもたちが大切な存在であり、地域全体で“ほんそご”を育てていく、という意思がうかがえる事業です。この「ほんそごSchool」で育った子どもたちが、未来の“ほんそご”とともに奮闘してくれることを期待しています。

（出雲教育事務所　派遣社会教育主事）

津和野町

地域でつくる子どもの成長と学びの場『アルモンデ食堂』

津和野町教育委員会　派遣社会教育主事　　水上 真悟

津和野町には、地域で子どもの成長と学びを支える場として、地域食堂『アルモンデ食堂』があります。ここは、子どもに共食の機会や多世代の温かなつながりを提供したい、子どもの居場所を確保し、食を通じた体験的な学びを提供したい、参加者が様々な機関とつながるきっかけとなる場にしたい(例:相談できる窓口、高齢者の孤立防止、子どもの教育支援、親同士のつながり等)という、思いをもった地域住民によって運営されています。

午前の昼食づくり

月に2回（土曜日と月曜日）開催されており、幼児から80代の方まで様々な世代の方が参加しています。午前中は地域から集まった食材を見て、みんなでメニューを相談し調理します。午後は学びの時間として、様々な活動をしています。

午後の学びの時間
（味噌づくり）

様々な人が集う場だからこそ、多様な人との心地よい関係が生まれています。小学生の姿を見ていても、

○幼児から頼られることから、自己有用感を感じながら活動している。

○年配の方が、子どもたちは愛おしい存在として関わってくださり、自尊心を高めている。

○地域の中で活動し、一緒に遊んでくれる高校生の姿が、よきロールモデルとなっている。

ということがわかります。この他にも様々な心地よい関係が生まれています。

子どもの成長や学びを地域で支えることを通して、大人たちが緩やかなつながりをつくり、人や活動の輪を広げています。

参加される方の思いがたくさん詰まった温かい雰囲気の場ですね。多様な世代のつながりが少なくなっている今だからこそ、このような場の必要性を強く感じます。地域のために何かしたいという皆さんの思いがより多くの方に広がり、町全体が子どもの成長と学びを支える場になっていくことを願っています。

（益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹）

しまねの社会教育×島根県立大学

地域政策学部（浜田キャンパス）

このページでは、社会教育と各方面の関係者、機関等とのコラボレーションを紹介したいと思います。
第2弾は、「しまねの社会教育×島根県立大学 地域政策学部の学生」です。ここでは、3名の学生が『地域魅力化プログラム』を活用しながら、「ファシリテーター」として地域で実践してみた感想を紹介します。

「地域課題」の把握と解決に挑戦　―地域の人たちとともに―

島根県立大学 地域政策学部は、「島根県をフィールドに、地域が抱える課題に対して多角的な視点で解決策を見出し、地域の発展に貢献できるグローカルな人材の育成」を掲げておられます。(島根県立大学地域政策学部HP参照)

同大学の 豊田 知世 准教授から「地域へ出かけて調査研究する際に、現地の課題や解決方法等を地域の人とともに見出すため、『地域魅力化プログラム』を活用した参加型学習のプログラム体験や、進め方・手法などについて説明してほしい。」と依頼を受け、西部社会教育研修センター スタッフが5月に授業を実施しました。

プログラム体験

その後、学生のみなさんは現地でファシリテートを通して、どのような経験をされたのでしょうか？取材に伺った内容を紹介します。

青戸 里菜(あおと りな)さん

浜田市波佐地区の女性部会の方々と地域資源開発のアイデアについて話し合いました。プログラムの体験から、グループで話し合った内容を全体で共有することに良さを感じていたので、実践にいかしてみました。すると地域住民の方から「それいいね!」という声を聞くことができました。そのような声が多く聞かれるよう、意見を出しやすい雰囲気づくりを意識していきたいです。

高尾 恭士(たかお きょうじ)さん

あさひ社会復帰促進支援センターの職員さんと受刑者の方が製作される商品開発について話し合いました。HPの「魅力化プログラム」を参照しながら、アイスブレイクに挑戦しました。自己紹介の時には、お題目の書かれた紙を1枚引き、そのことについて話をしてもらいました。お互いの距離が少し縮められたのではと思います。このような場を経験する機会はまだ少なく、難しさも感じますが、自分から心をひらくことを大切にしていきたいです。

兵藤 葵(ひょうどう あおい)さん

ランキングは、それぞれ自分の中で順位(価値基準)を明確にする良さがあると体験して気づきました。実践の場をとおして、相手に対してどこまで踏み込んで聞いてよいのかという難しさや、必要な知識をもってその場に臨む必要性を経験することができました。相手にとってわかりやすいとはどういうことなのか、話す言葉の吟味や見せ方、言葉づかいも含め今後の課題としていきたいです。このような学びをすることができたよい場、機会でした。

地域の方との話し合いから、ファシリとしての成果も課題も見出すことができたようです。地域の発展に貢献しようと積極的に学び続ける学生の姿は、地域の方々もきっと刺激を受けたことでしょう。住民同士が、地域のために顔を合わせて話し合う。そのきっかけを生み出す学生のみなさんは、まさに地域に貢献する人材となるでしょう。

※「地域魅力化プログラム」とは、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援・推進するために、参加型学習の手法を用いた学習支援プログラムです。当センターホームページから閲覧・ダウンロードできます。

東部社会教育研修センター
〒691-0074 出雲市小境町1991-2　サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第37号は9月末発行予定